

## 特許協力条約

PCT

## 特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

REC'D 17 NOV 2005

WIPO

PCT

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)  
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 JA928843	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/013392	国際出願日 (日.月.年) 08.09.2004	優先日 (日.月.年) 08.09.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> C09K11/06, C01B33/12, G01N33/543, G01N33/533, G01N33/566		
出願人 (氏名又は名称) 学校法人 早稲田大学		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
  - a.  附属書類は全部で 2 ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70、16及び実施細則第607号参照）

□ 第Ⅰ欄4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b.  電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関するテーブルを含む。  
(実施細則第802号参照)

#### 4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第I欄 國際予備審査報告の基礎

第II欄 优先權

第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての國際予備審査報告の不作成

第IV欄 発明の單一性の欠如

第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明

第VI欄 ある種の引用文献

第VII欄 國際出願の不備

第VIII欄 國際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 07. 07. 2005	国際予備審査報告を作成した日 31. 10. 2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渡辺 陽子 電話番号 03-3581-1101 内線 3483 4V 9279

## 第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文

國際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

國際公開 (PCT規則12.4(a))

國際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

出願時の国際出願書類

明細書

第 1-25 ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 2-6, 8-28 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT 19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 1 項\*、07.07.2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 1-8 図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3.  補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
 請求の範囲 第 7 項  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4.  この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
 配列表に関するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 <u>1-6, 8-28</u>	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 <u>1-6, 8-28</u>	有
	請求の範囲 _____	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 <u>1-6, 8-28</u>	有
	請求の範囲 _____	無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

## 請求の範囲 1-6, 8-28

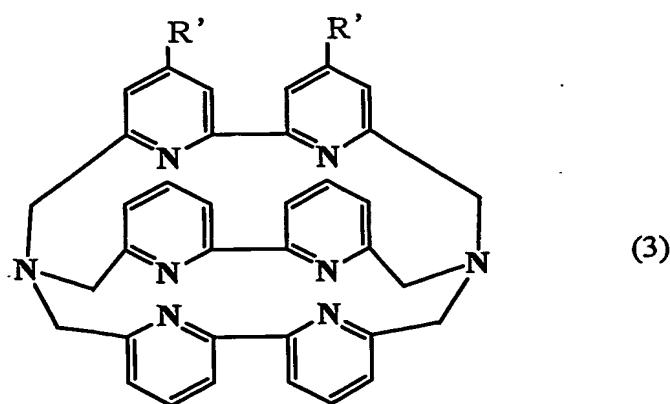
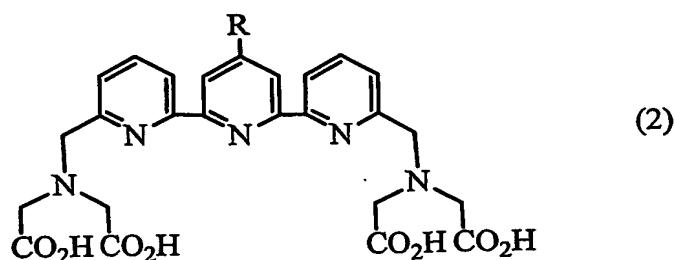
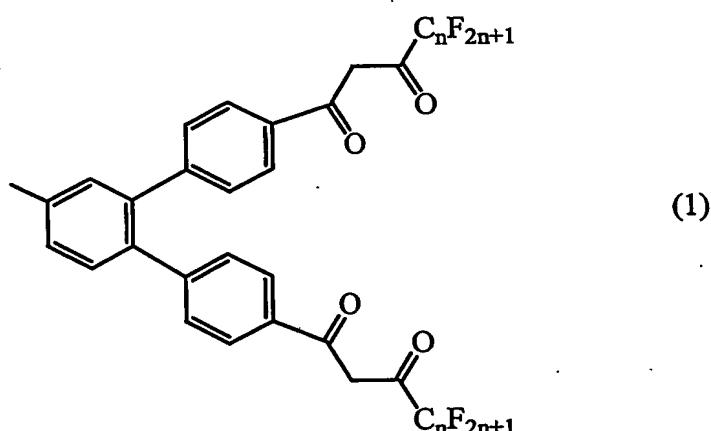
国際調査報告で引用した文献のいずれにも、「シリカ粒子の内部に多くの希土類蛍光錯体が選択的に取り込まれており、粒子の表面付近は実質的にシリカがそのまま存在している希土類蛍光錯体を含有してなる希土類蛍光錯体含有シリカ粒子」が記載も示唆もされていない。

したがって上記請求の範囲記載の発明は、国際調査報告で引用した文献に対し、新規性・進歩性を有する。

## 請求の範囲

1. (補正後) シリカ粒子の内部に多くの希土類蛍光錯体が選択的に取り込まれており、粒子の表面付近は実質的にシリカがそのまま存在している希土類蛍光錯体を含有してなる希土類蛍光錯体含有シリカ粒子。

2. 希土類蛍光錯体が、次式 (1) ~ (6)



BEST AVAILABLE COPY

で表される化合物群から選ばれる少なくとも1種の化合物を配位子として含有するものである請求の範囲第1項に記載のシリカ粒子。

5. 希土類蛍光錯体が、テルビウム又はユウロピウムの錯体である請求の範囲第1項～第4項のいずれかに記載のシリカ粒子。

6. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子が、エマルジョン重合法により製造されたものである請求の範囲第1項～第5項のいずれかに記載のシリカ粒子。

7. (削除)

8. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子に標識される物質との結合基が導入されている請求の範囲第1項～第7項のいずれかに記載のシリカ粒子。

9. 結合基が、シアノ基である請求の範囲第8項に記載のシリカ粒子。

10. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子に二本鎖DNAと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。

11. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子に二本鎖RNAと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。

12. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子に二本鎖PNAと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。

13. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子にDNA/RNAの二本鎖ハイブリッドと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。

14. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子にDNA/PNAの二本鎖ハイブリッドと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。

15. 希土類蛍光錯体含有シリカ粒子にRNA/PNAの二本鎖ハイブリッドと特異的に結合するインターラーカレーターが導入されている請求の範囲第1項～第9項のいずれかに記載のシリカ粒子。